

大阪科学・大学記者クラブ 御中
(同時提供先：文部科学記者会、科学記者会)



2023年1月11日
大阪公立大学

新型コロナウイルス感染後に半数以上が後遺症アリ
～ 重症度に関係なく、味覚・嗅覚の異常、睡眠障害などの
後遺症状が残る可能性があることも明らかに ～

<概要>

大阪公立大学大学院医学研究科 臨床感染制御学の井本 和紀 (いもと わき) 病院講師らの研究グループは、新型コロナウイルス感染の後遺症に関して 285 名を対象にアンケート調査を実施した結果、新型コロナウイルスに感染後約 1 年が経過していても、半数以上の人に後遺症状が残っていることを明らかにしました。

現在、新型コロナウイルスに感染するとさまざまな後遺症状が残ることが、主に海外から報告されています。しかし、日本では詳細な新型コロナウイルス感染の後遺症に関する調査が進んでおらず、後遺症を診察するとともに、後遺症について研究を行っている施設・医師はほとんどいない状況です。

本研究により、新型コロナウイルス感染の後遺症が多数の人に残っていることが明らかとなったとともに、新型コロナウイルスに感染した際の重症度と関係なく、倦怠感や味覚・嗅覚の異常、抜け毛、睡眠障害の後遺症状が残ってしまう可能性があることも明らかとなり、重症化リスクが低い人であっても、新型コロナウイルスの感染に注意する必要があると考えられます。

本研究成果は、2022年12月27日(火)に、国際学術誌『Scientific Reports』にオンライン掲載されました。

現在では、よく知られるようになってきた新型コロナウイルス感染の後遺症ですが、流行当初はあまり認知されていませんでした。本学では先駆けて 2021 年の初頭より新型コロナウイルス感染の後遺症に関する研究・専門外来を開始し、後遺症に苦しむ方々を診察してきました。その研究結果がやっと形となり、この研究によって新型コロナウイルス感染の後遺症をたくさんの方に理解していただく一助となればと考えています。



井本 和紀病院講師

<研究の背景>

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）ではさまざまな後遺症状が残ることが、主に海外から報告されています。後遺症は実に多岐にわたり、咳や体のだるさが残るだけでなく、記憶力や集中力が低下してしまうこともあります。さらには精神的な不調や神経の障害も起こるため、日常生活に大きな影響を与えてしまう可能性があります。

しかし、日本では詳細な COVID-19 の後遺症に関する調査があまり進んでおらず、後遺症を診察するとともに、後遺症について研究を行っている施設・医師はほとんどいませんでした。

<研究の内容>

大阪の 5 つの病院（大阪公立大学医学部附属病院、大阪市立十三市民病院、大野記念病院、旧：阪和第二病院、ベルランド総合病院）で 2020 年 1 月 1 日～2020 年 12 月 31 日の間に COVID-19 と診断された人、もしくは各病院に入院した人（計 285 名）を対象に、新型コロナウイルスの感染後約 1 年後の後遺症に関するアンケート調査を行いました。アンケートでは、『COVID-19 の後遺症がどのような症状で、どれくらいの人に残っているのか』『それによってどれくらい生活に影響を受けているのか』『どのような人が、後遺症が残りやすいのか』について調査しました。

その結果、対象者のうち半数以上(56%)の人に、少なくとも 1 つ以上の後遺症状が残っていることが明らかとなりました（図 1）。

新型コロナウイルス感染から1年後に後遺症を有していた人の割合	
対象者のうち 1つ以上後遺症状を有していた人の割合	56.1% (160/285人)
新型コロナウイルス感染時は無症状や軽症であった人のうち 1つ以上後遺症状を有していた人の割合	52.9% (37/70人)
新型コロナウイルス感染時に中等症～重症であった人のうち 1つ以上後遺症状を有していた人の割合	57.5% (123/214人)

図 1

後遺症状については、比較的軽症の人（無症状者・軽症者）では、倦怠感や抜け毛、集中力・記憶力の異常、睡眠障害が多く残っており(10%以上)、比較的重症の人(中等症～重症)では、倦怠感、呼吸困難感（息がしづらくなる感じ）、味覚障害、抜け毛、集中力の異常、記憶力の異常、睡眠障害、関節の痛み、頭痛が多く残っていたことが明らかになりました(10%以上)。

また、生活に大きな影響を与えている後遺症としては、倦怠感、喀痰(痰が多くでること)、呼吸困難感、嗅覚の異常、抜け毛、集中力や記憶力の異常、睡眠障害、関節の痛み、眼の充血、下痢があり、これらの症状が常に気になるほど残っていることで「生活の質」が低下している人が多くいることがわかりました。

次に、どのような人で後遺症が残りやすいかを検討するため、後遺症状と危険因子（患者の背景・持病・血液検査値）についてロジスティック回帰分析を実施しました。図 2 では数字の大きいものほど後遺症状と危険因子の関連性が強いことを表しており、新型コロナウイルスに感染した際の重症度と、喀痰、胸痛、呼吸困難感、咽頭痛、下痢などが非常に強く関連していることがわかりました。しかし、新型コロナウイルスに感染した際の重症度と関係なく残ってしまう後遺症として倦怠感や味覚・嗅覚の異常、抜け毛、睡眠障害がありました。

本研究により、若年層やワクチンをすでに打っている人、過去に新型コロナウイルスに感染しており重症化する可能性が低い人でも後遺症が残る可能性があり、感染に注意が必要だと言えます。

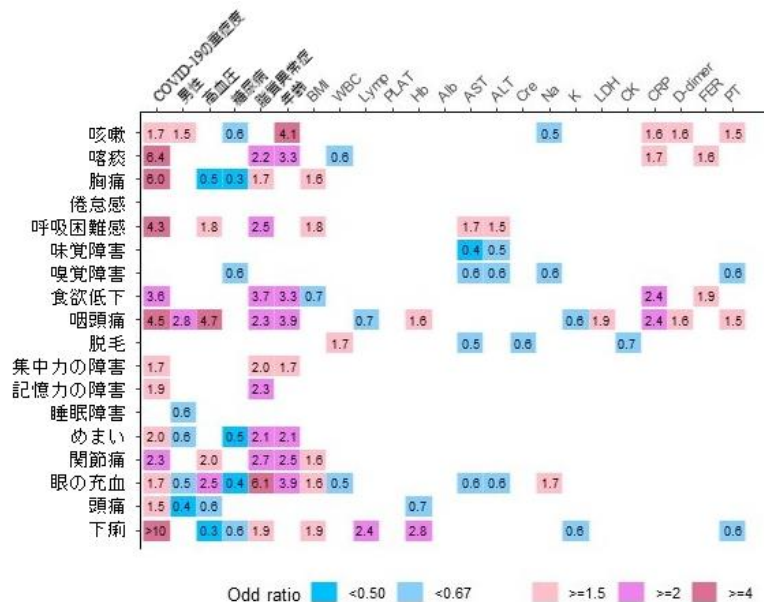


図 2. 後遺症状と患者の背景・持病・血液検査値の関連性の強さ

<期待される効果・今後の展開>

現在流行している新型コロナウイルスオミクロン株では重症化する可能性は低いとされています。また、一部の報告ではこれまでに流行した株と比較すると後遺症が少ないともいわれています。しかし、本研究により、重症度と関係なく残りやすい症状があることが明らかとなったことから、今後も COVID-19 の後遺症については引き続き注意が必要だと言えます。大阪公立大学医学部附属病院では新型コロナウイルス感染(COVID-19)後遺症専門外来を2021年2月に立ち上げており、後遺症に関する本研究結果を後遺症に苦しむ方々の治療に役立てていきます。

しかし、現状では後遺症の治療法が確立されていないわけではないため、これからも研究を継続していく必要があると考えています。

<資金情報>

本研究は、2021年度第27回大阪難病研究財団医学助成事業（助成番号27-2-5）の支援を受けて行われました。

<掲載誌情報>

【発表雑誌】 Scientific Reports

【論文名】 A cross-sectional, multicenter survey of the prevalence and risk factors for Long COVID

【著者】 Waki Imoto, Koichi Yamada, Ryota Kawai, Takumi Imai, Kengo Kawamoto, Masato Uji, Hidenori Kanda, Minoru Takada, Yoshiteru Ohno, Hiroshi Ohtani, Manami Kono, Atsuhito Hikiishi, Yosuke Eguchi, Hiroki Namikawa, Tomoya Kawaguchi, Hiroshi Kakeya

【掲載 URL】 <https://doi.org/10.1038/s41598-022-25398-6>

【研究内容に関する問い合わせ先】

医学研究科 臨床感染制御学
病院講師 井本 和紀 (いもと わき)
TEL : 06-6645-3784
E-mail : wakiiimoto@omu.ac.jp

【報道に関する問い合わせ先】

広報課 担当 : 久保
TEL : 06-6605-3411
E-mail : koho-list@ml.omu.ac.jp